

# めぐみイエス・キリスト教会

2023年8月6日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第668号」



## 2023年標題聖句

### 第 I ヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌259「聖いふみは教える」 p. 404

【交読文】 No.33 詩篇第104篇 p. 906

【賛美Ⅱ】 新聖歌339「恵みの高き嶺」 p. 538

【使徒信条】 【主の祈り】

【先々週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「主の十字架」

【聖書朗読】 ルカの福音書1章5節～17節(新約p. 106)

【礼拝説教】 《祭司ザカリヤへのお告げ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所(ルカの福音書1章5節～17節)

1:5 ユダヤの王ヘロデの時代に、アビヤの組の者でザカリヤという名の祭司がいた。彼の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツと叫んだ。

1:6 二人とも神の前に正しい人で、主のすべての命令と掟を落度なく行っていた。

1:7 しかし、彼らには子がいなかった。エリサベツが不妊だったからである。また、二人ともすでに年をとっていた。

1:8 さてザカリヤは、自分の組が当番で、神の前で祭司の務めをしていたとき、

1:9 祭司職の慣習によってくじを引いたところ、主の神殿に入って香をたくことになった。

1:10 彼が香をたく間、外では大勢の民がみな祈っていた。

1:11 すると、主の使いが彼に現れて、香の祭壇の右に立った。

1:12 これを見たザカリヤは取り乱し、恐怖に襲われた。

1:13 御使いは彼に言った。「恐れることはありません、ザカリヤ。あなたの願いが聞き入れられたのです。あなたの妻エリサベツは、あなたに男の子を産みます。その名をヨハネとつけなさい。

1:14 その子はあなたにとって、あふれるばかりの喜びとなり、多くの人もその誕生を喜びます。

1:15 その子は主の御前に大いなる者となるからです。彼はぶどう酒や強い酒を決して飲まず、まだ母の胎にいるときから聖霊に満たされ、

1:16 イスラエルの子らの多くを、彼らの神である主に立ち返らせませす。

1:17 彼はエリヤの霊と力で、主に先立って歩みます。父たちの心を子どもたちに向けさせ、不従順な者たちを義人の思いに立ち返らせて、主のために、整えられた民を用意します。」

### ●ポイント1.「アビヤ組」とは？

※第 I 歴代誌24章1節～19節「ダビデによる組分け」(旧約p.744上段)

### ●ポイント2.「ザカリヤはなぜ恐怖に襲われた」のか？

※使徒の働き23章7節～8節「パウロの議会での弁明」(新約p.283下段)

23:7 パウロがこう言うと、パリサイ人とサドカイ人の間に論争が起こり、最高法院は二つに割れた。

23:8 サドカイ人は復活も御使いも霊もないと言い、パリサイ人はいずれも認めているからである。

### ●ポイント3.「エリヤの霊と力」とは？

※マラキ書4章5節～6節「最後の預言書から」 (旧約p.1635下段)

4:5 「見よ。わたしは、【主】の大いなる恐るべき日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。4:6 彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、この地を聖絶の物として打ち滅ぼすことのないようにするためである。」

## ◎先々週の礼拝メッセージ【ルカの福音書】

《今日からルカの福音書に入ります。使徒の働き13章には興味深い記事が残されています。『さて、アンティオキアには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、クレネ人ルキオ、領主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどの預言者や教師がいた。』と。

この教会は、「慰めの子」と言われたバルナバが始めました。しかも彼は、十二使徒に次ぐ、60人の弟子の一人で、主イエスの公生涯のほとんどを、行動を共にしていたこととなります。そして、ニゲルと呼ばれるシメオンは、主イエスの十字架を代わりに担がされた者で、おそらく主の十字架刑を最初から最後まで、家族と一緒に見送ったと思われる。そして、領主ヘロデ・アンティパスの乳兄弟マナエンですが、宮殿の出来事に相当詳しい人物であったと考えられます。

次にクレネ人ルッキオです。ルッキオを省略したのがルカで、医者ルカと同一人物であるとも考えられます。要するに、アンティオキア教会には、福音書を書く為に必要な情報を提供できる重要人物が、聖霊によって集められていたことが分かります。

そして、テオフィロとは、「ルカの福音書」と「使徒の働き」が献呈された人物で、「神の友」という意味です。また、「尊敬する」と言う原語は、「閣下」と同じであり、ローマ社会の重要な地位にあった人物と思われる。クリスチャンである可能性は非常に高いと考えられます。

それゆえルカは、テオフィロに、正確で、順序立てて、主イエス・キリストと教会のことを伝える必要があったのです。もし、テオフィロがいなければ、福音書と使徒の働きは生まれなかったかも知れません。

ローマにおけるパウロの二年間の裁判待機期間中、ルカはそこで、パウロの世話をしながら、パウロの監修のもとに、二つの書物を完成させます。特に、使徒の働きが、途中で終わっていることから、パウロが釈放される直前まで、執筆していたとも考えられます。》

## ◎お知らせ

※次回礼拝は、8月13日(日)で、通常通り、午前10時からです。